



日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

NIPPON BIOLOGICALS, INC.

日本バイオロジカルズ株式会社



The Leading Company Focused on Avian Biologicals.



日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

会社概要
企業目的
戦略
製品の概要
支援プログラム
知的財産
展望

INDEX

- I. 会社の概要：
 1. 名称
 2. 理念
 3. 設立年月日
 4. 資本金
 5. 役員及びマネージメント
 6. 代表者
 7. 歴史
 8. 所在地（本社, R&D, QC, 倉庫）
 9. Home Page

- II. 企業目的：
 1. 企業目的
 2. 企業理念
 3. 企業ポリシー

- III. 戦略：
 1. 基本戦略
 2. 開発戦略
 3. 普遍的テーマ
 4. ワクチン思想戦略

- IV. 製品の概要：
 1. 製品リスト

- V. 支援プログラム：
 1. 考え方
 2. シンポジウム
 3. コンサルティング

- VI. 知的財産：
 1. 許認可（製品）

- VII. 展望：




I . CORPORATE PROFILE

日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

会社概要

1. 名称
2. 理念
3. 設立年月日
4. 資本金
5. 主要株主
6. 役員及びマネージメント

会社概要：

1. 名称： 日本バイオロジカルズ株式会社 略称： NBI 商標： 
Nippon Biologicals, Inc.
スローガン： 鶏用ワクチンのリーディングカンパニー
2. 理念： 少数精鋭を貫き、スピーディな判断のできる、徹底した効率とベンチャー精神を追求する組織であること。また、常に先駆者としての自覚を持ち、業界のリーディングカンパニーとして市場の声を良く聞き、高いレベルの製品とサポートを提供する。
3. 設立年月日： 1994年3月25日（決算期： 4月1日～3月31日）
4. 資本金： 21,000万円
5. 役員及びマネージメント：

会長：	所 源亮
取締役：	福井 寿一（代表）
	高野 恵一
	大数見 徹
	小野 真（監査役）

エグゼクティブ・マネージメント：	
開発本部長：	関屋 幸男
Executive Marketing Coordinator：	館澤 佑
総括管理責任者：	宗像 保久
品質管理責任者：	荻野 祥樹
企画マネージャー：	保坂 卓

技術委員	
技術委員会代表	長谷川 祐一
技術委員会代表	竹村 直士
技術委員会代表	大内 輝昭



I . CORPORATE PROFILE

会社概要：

日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

会社概要

- 7. 代表者
- 8. 歴史
- 9. 所在地
- 10. Home Page

7. 代表者： 所 源亮（会長）

<プロフィール>

医薬品、植物及び動物の遺伝子、ワクチン、食糧などの分野における創業、ジョイントベンチャー、ライセンス交渉及びリストラクチャリングに多くの実績を持つ。

<略歴>

10年間、世界最大の種子会社、パイオニアハイブレッッドインターナショナルに在籍。国際部取締役営業本部長としてアジア、欧州、中南米における同社の種子ビジネスを拡大させる。その後、バイオ製品・農業製品の国内メーカーのゲンコーポレーションの社長を経て、1993年、日本バイオロジカルズ(株)社長に就任し、2009年会長に就任。アリジェン（株）社長、NAI, Inc. 会長などを歴任、兼務する。
一橋大学特任教授。

福井 寿一（代表取締役）

<略歴>

1998年日本全薬工業（株）に入社後、米国メリアルにて研修。NBI出向の後、2008年より日本全薬工業（株）海外事業部北京代表処首席代表を経て、2011年4月より現職。

8. 歴史： 1994年3月、所源亮(45%)、旭化成(40%)、Bioproperties(Australia) Pty,Ltd.(5%)、Dr. Arthur Webster (5%)、関屋 幸男 (5%) の合弁事業としてスタート。 旭化成、共立製薬との販売提携関係を経て、2003年2月に日本全薬工業株式会社と販売提携、2009年4月、日本全薬工業株式会社の系列下となり、現在に至る。

9. 所在地（本社、R&D, QC, 倉庫）：

東京事務所（業務、渉外、法務、財務、輸入）

〒107-0061 東京都港区北青山一丁目5番12号 北青山ホームズ5階

郡山本社（本社業務。研究開発及び発送）

〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1番地の1

郡山研究所（品質管理及び検品）

〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1番地の1

日本全薬工業株式会社 中央研究所付

10. Home Page : <http://www.nbi.ne.jp>



日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

企業目的

1. 企業目的
2. 企業理念
3. 企業ポリシー

II. CORPORATE OBJECTIVE

企業目的：

1. 企業目的： 鶏用ワクチンのリーディングカンパニー
2. 企業理念： 少数精鋭を貫き、スピーディな判断のできる、徹底した効率とベンチャー精神を追求する組織であること。また、常に先駆者としての自覚を持ち、業界のリーディングカンパニーとして市場の声を良く聞き、高いレベルの製品とサポートを提供すること。
3. 企業ポリシー：
 - 1) 高品質の製品の提供及び高いレベルの製品支援を行うこと。
 - 2) 常に先駆者としての自覚と独立心を持つこと。
 - 3) 取引先、株主及び社員に対し、公正であること。



III. CORPORATE STRATEGY

企業戦略：

日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

企業戦略

1. 基本戦略
2. 開発戦略

1. 基本戦略

- 基幹となる鶏用ワクチンを選択し、開発する。
- 独占できる鶏用ワクチンを最優先して上市する。
- 自社ブランド化できるワクチンを優先する。
- メーカーとの供給契約は、NBIの努力がある限り続く契約とする。
- 如何なる販売レートを設定するとしても、市場の大手ユーザーとの直接コンタクトを必ず維持する。
 - ・ 春期テクニカルシンポジウム
 - ・ 秋期マネージメントシンポジウム
 - ・ Technical NewsなどのDM
 - ・ 高いレベルのコンサルティング
- 先駆者としてのイメージをつくる。
 - ・ シンポジウム
 - ・ 新聞・雑誌の記事掲載
 - ・ ホームページ
 - ・ 講演会
 - ・ 対談シリーズ(国産の意義を考える)
- 競争する時は、徹底的にダイナミックなたたかひをする。
 - ・ Leanな体制でいること
 - ・ Cash positionを流動的にすること

2. 開発戦略 (Balance of Power)

- グローバルに通用する技術開発に絞り、その技術を国内外メーカーとバーター取引する。
- 国内メーカーの優良技術を海外メーカーに導出するリード役を果たす。



日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

企業戦略

3. 普遍的テーマ

4. ワクチン思想戦略

III. CORPORATE STRATEGY

企業戦略：

3. 普遍的テーマ

- “国際競争に於ける国産化の意義”
日本でタマゴそして鶏肉をつくる必要性そのものの意義を問うことによって、日本の養鶏産業が今しなくてはならないことをみつけること。
- “人畜共通感染症の対策”
特にトリからヒトへの病気に対する対策を中心として、正しい知識の啓蒙や研究開発の促進。
- “タマゴと鶏肉の消費促進と付加価値の増大”
タマゴの価値創造に関する研究、そしてコレステロールとタマゴとの関係の研究。

4. ワクチン思想戦略 (Tender-Vax[®])

- 鶏にやさしいワクチンを提供するという思想のもとに、極力“生”ワクチンを中心とした事業体とする。日本で初めて“細菌の生ワクチン化”を可能にした伝統を守る。



IV. PRODUCT PROFILE

製品の概要：

1.製品リスト(List of Products)

1-1. VACCINES

Mg生ワクチン：Mg生ワクチン（NB I）
MS生ワクチン：MS生ワクチン（NB I）
AE生ワクチン：AE生ワクチン（NB I）
IBDインタメディエートタイプ生ワクチン：IBD生ワクチン（NB I）
IBDヒナ用生ワクチン：ひな用IBD生ワクチン（NB I）
MD（HVT）：MD/HVT生ワクチン（NB I）
MD（HVT+SB1）：2価MD/HVT+SB-1生ワクチン（NB I）
MD（CVI）：MD/CVI生ワクチン（NB I）
ND（B1）生ワクチン：ND/B1生ワクチン（NB I）
IB（H120）生ワクチン：IB/H120生ワクチン（NB I）
NB（B1+H120）生ワクチン：NB/B1+H120生ワクチン（NB I）

1-2. その他

MD（プラスチック容器入り溶解液）：MD溶解用液（NB I）

日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

Product Profile

- 1. 製品リスト
- 1-1. ワクチン
- 1-2. エリーザキット
- 1-3. その他



V. PROMOTION

支援プログラム：

1. 考え方

NBIの企業目的である鶏用ワクチンのリーディングカンパニーというイメージを形成するプロモーションを行う。また、企業概念及びポリシーに合致した高レベルかつ一歩先を認識した支援プログラムを実行する。NBIのプロモーションとサポートは、常にユーザー直結していなくてはならない。したがって、春と秋のシンポジウムを基本におき、Direct mail（ニュースリリース）及び直接訪問により、春（技術中心）と秋（マネジメント中心）のシンポジウムの効果を極大化する。

2003年より、有能なコンサルティンググループ、NBI/Zenoaq技術委員会を形成し、大手ユーザーの経営及び生産の統合的な支援ができる体制を確立した。

日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

支援プログラム
1. 考え方

支援プログラム：

2. シンポジウム

2-1. NBIテクニカル・シンポジウム（国内）

2001年4月 第1回NBIテクニカル・シンポジウム『人畜共通感染症の対策』（東京：明治記念館）

- ① 山内 一也（東京大学名誉教授）“脅威となる人畜共通の感染症”
- ② Dr. Kevin Whithear（メルボルン大学教授）“粘膜免疫の重要性（Mg生ワクチンを例として）”
- ③ 伊藤 武（財団法人東京顕微鏡院・食と環境の科学センター所長）“東京都条例（鶏卵）に対応する農場現場の準備作業”

2002年5月 第2回NBIテクニカル・シンポジウム『Avian Influenzaの脅威』（東京：東京大学医科学研究所）

- ① 河岡 義裕（東京大学医科学研究所ウイルス感染分野教授）“トリインフルエンザの科学”
- ② Dr. David J. Henzler（ペンシルバニア州政府農務局家禽疾病対策室長）“ペンシルバニア州に於けるAI発生とその対策”
- ③ Dr. Juan G. Garcia（アビメックス社取締役研究開発本部長）“メキシコに於けるAI発生の経験と対策”
- ④ Dr. Ilaria Capua（イタリア国立家禽研究所部長）“イタリアに於けるAI発生とワクチンによる防疫に至るまでの経験”

2003年5月 第3回NBIテクニカル・シンポジウム『畜糞のマネージメントを考える』（東京：津田ホール）

- ① 代永 道裕（独立行政法人農業技術研究機構 上席研究官）“環境三法の概要と畜産業に及ぼす影響”
- ② 川嶋 賢二（株式会社カワシマ 代表取締役）“糞尿処理の革命機械・スクリュウ型コンポストプラントRA-X”
- ③ 牧田 登之（元山口大学教授）“バイオ飼料BX-1（土壌菌）の生体、環境に対する効果”
- ④ 上野 英雄（日本エメラル株式会社 代表取締役社長）“微生物混合飼料を利用した発酵産物の新しいマーケット”
- ⑤ 藤田 哲夫（フジ・エコー 現地指導顧問）“環境対策資材について”
- ⑥ 星田 真一（株式会社エコノス・ジャパン 代表取締役）“過熱蒸気による乾燥・炭化装置-鶏糞が冷蔵庫にはいる?-”
- ⑦ 西嶋 潔（ITSファーム株式会社 専務取締役）“グローバル化への対応-環境問題改善に関わる行政への要望・提言-”
- ⑧ 畜産代表者（確認中）“畜種を超えた畜糞処理の試み”

2-2. NBI国際シンポジウム（海外）

1999年11月 第1回NBI国際シンポジウム『食中毒ワクチンの開発』（ハワイ・オアフ島）

- ① Dr. Heike Scharr（ローマンアニマルヘルス社）“ヨーロッパのサルモネラ生ワクチンの使用実績と効果の報告”
- ② Mr. David Zacek（メガンヘルス社）“サルモネラ生ワクチンの使用実績報告及び開発中の生ワクチン”
- ③ Dr. Peter Coloe（メルボルン工科大学教授）“BP社が開発中の生ワクチン”
- ④ Mr. David Tinworth（バイオプロパティーズ社 代表取締役社長）“脅威のMs/Mg生ワクチン”
- ⑤ 佐藤 静夫（家禽衛生研究所）、中村 政幸（北里大学教授）“サルモネラの生ワクチンの世界情勢”

2000年11月 第2回NBI国際シンポジウム『新世代によるポータービジネスの構築』（ハワイ・ラナイ島）

- ① 米倉 誠一郎（一橋大学イノベーション研究センター長）“イノベーション！イノベーション！！イノベーション!!!”
- ② 石原 一子（前株式会社高島屋 常務取締役）“ブランド・マーケティングの意味”
- ③ 岡 徳友（株式会社鶏鳴新聞社 代表取締役社長）“日本の養鶏産業の歩みと展望”
- ④ 所 源亮（日本バイオロジカルズ株式会社 代表取締役）“Bioventureの資金調達からExitまで”

2002年10月 第3回NBI国際シンポジウム『国産の意義』（オーストラリア・ポートダグラス）

- ① Dr. Clive Jackson（前オーストラリア家禽研究所所長）“オーストラリアのレイヤー及びブロイラー事情”
- ② 館澤 佑（日本バイオロジカルズ株式会社 営業本部長）“GMOについて”
- ③ Dr. Ken Shortridge（香港大学名誉教授）“中国とオーストラリアでのAIについて”
- ④ Mr. Andrew Almond（メルボルン大学講師）“養鶏産業の品質と管理プログラム” “フリー・レンジ養鶏場”
- ⑤ Dr. Grant Richards（Medichick Pty Ltd社代表）“コクシジウム生ワクチンの開発について”



V. PROMOTION

支援プログラム：

3. コンサルティング

■ 経営コンサルティング

- 企業の現状の把握。
- 利益の出る組織へのリストラクチャリング・プランの作成。
- プランに従ったリストラクチャリング（人、組織、財務、営業、開発）の実行。

■ 技術コンサルティング（長谷川 祐一、竹村 直士、大内 輝昭及び館澤 佑）

- 現状の把握。
- 目的に添った生産計画の立案。
- 生産計画実行の為の勉強会及び指導。
- 人の教育も含めた実績モニター及び勉強会。

日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

支援プログラム
3. コンサルティング



VI. INTELLECTUAL PROPERTY

知的財産：

1. 許認可（製品）

日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

知的財産
1. 許認可

<u>許可品目</u>	<u>許可番号</u>	<u>許可年月日</u>
Mg生ワクチン（NBI）	7畜A第2018号	平成7年8月30日
MD/HVT生ワクチン（NBI）	9畜A第728号	平成9年4月10日
2価MD/HVT+SB1生ワクチン（NBI）	9畜A第728号	平成9年4月10日
ひな用IBD生ワクチン（NBI）	9畜A第2642号	平成10年1月26日
AE生ワクチン（NBI）	9畜A第2642号	平成10年1月26日
ND/B1生ワクチン（NBI）	9畜A第2642号	平成10年1月26日
NB/B1+H120生ワクチン（NBI）	11畜A第1562号	平成11年6月29日
IB/H120生ワクチン（NBI）	11畜A第1562号	平成11年6月29日
MD/CVI生ワクチン（NBI）	9畜A第2642号	平成10年1月26日
* AI不活化ワクチン（NBI）	16消安第7189号	平成16年12月13日
MS生ワクチン（NBI）	17消安第9177号	平成17年12月7日
IBD生ワクチン（NBI）	19動薬第1834号	平成19年10月5日

注）*：政府備蓄用ワクチンとしての承認



VII. PROSPECTIVE

展望

NBIは、名実ともに日本の養鶏ワクチンのリーディングカンパニーとなる。

1. 製品力 . . . 主要な鶏病に対して
“鶏にやさしいワクチン” でカバーすることができるワクチン開発。
 - ① サルモネラ
 - ② DAV
 - ③ ソロ/政策による
3. サービス . . . NBI技術委員会が養鶏場の要望に直接
対応、最新情報を発信する。
4. 開発力及び国際力 . . . グローバル価値のある製品を内外に提供する。
NBIが持つグローバル・パートナーリングを
最大限に活用する。
Balance of Powerの実践。

日本バイオロジカルズ株式会社
NIPPON BIOLOGICALS, INC.

展望